

2022 年度 日本大学 (N方式Ⅱ期)

【 講 評 】

例年の N 方式同様、大問 6 題で出題された。[I] が小問集合で、[Ⅱ] ～ [Ⅵ] が大問という形式にも変化はなかった。すべての問題が典型問題であり、解法に困るようなことはない。また、計算が煩雑な問題もなかったため、時間的な厳しさもなかった。Ⅰ期と比較して、やや難易度が下がっていることと、Ⅱ期の募集定員等を考慮すると、8割以上の得点が目標となるだろう。

【 解 答 】

[I] 小問集合【易】

- (1) $\boxed{1} : 1, \boxed{2} : 1, \boxed{3} : 7, \boxed{4} : 6$ (2) $\boxed{5} : 4,$
 (3) $\boxed{6} : -, \boxed{7} : 1, \boxed{8} : 4, \boxed{9} : 2, \boxed{10} : 5,$ (4) $\boxed{11} : 6, \boxed{12} : 1, \boxed{13} : 9,$
 (5) $\boxed{14} : 6, \boxed{15} : 6, \boxed{16} : 9,$

[Ⅱ] 指数関数 (数Ⅱ)【やや易】

- $\boxed{17} : 1, \boxed{18} : 0, \boxed{19} : 5, \boxed{20} : 5, \boxed{21} : 4, \boxed{22} : -, \boxed{23} : 3, \boxed{24} : 4, \boxed{25} : 0,$

[Ⅲ] ベクトル (数B)【やや易】

- $\boxed{26} : 1, \boxed{27} : 3, \boxed{28} : 2, \boxed{29} : 3, \boxed{30} : -, \boxed{31} : 1, \boxed{32} : 7, \boxed{33} : -,$
 $\boxed{34} : 2, \boxed{35} : 7,$

[Ⅳ] 数列 (数学B)【やや易】

- $\boxed{36} : 2, \boxed{37} : 2, \boxed{38} : 5, \boxed{39} : 0, \boxed{40} : 6, \boxed{41} : 5, \boxed{42} : 1,$

[Ⅴ] 微分法・積分法 (数学Ⅲ)【やや易】

- $\boxed{43} : 1, \boxed{44} : 0, \boxed{45} : 1, \boxed{46} : 2, \boxed{47} : 4, \boxed{48} : 2, \boxed{49} : 2, \boxed{50} : 2,$

[Ⅵ] 関数の極限 (数学Ⅲ)【標準】

- $\boxed{51} : 2, \boxed{52} : 2, \boxed{53} : 2, \boxed{54} : 2, \boxed{55} : 2, \boxed{56} : 1, \boxed{57} : 2, \boxed{58} : 8$

【 問 題 】

I

(1) $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ とする. $\sin \theta + \cos \theta = \frac{1}{3}$ のとき, $\sin \theta = \frac{\boxed{1}}{\boxed{4}} + \sqrt{\frac{\boxed{2}}{\boxed{3}}}$

である.

(2) x の 2 次不等式 $mx^2 + 4x + m - 3 > 0$ の解がすべての実数であるとき, 定数 m のとり得る値の範囲は $m > \boxed{5}$ である.

(3) i を虚数単位とする. $x = \frac{1-2i}{1+2i}$ のとき, $x^2 + \frac{1}{x^2} = \frac{\boxed{6} \mid \boxed{7} \mid \boxed{8}}{\boxed{9} \mid \boxed{10}}$ である.

(4) 1 つのさいころを 3 回続けて投げる. 3 回の出た目の最大値が 3 であったという条件のもとで, 3 回の出た目がすべて異なる確率は $\frac{\boxed{11}}{\boxed{12} \mid \boxed{13}}$ である.

(5) 中心が直線 $y=2x-3$ 上にあり, x 軸と y 軸の両方に接する円のうち, 半径が最大の円の方程式は $x^2 + y^2 - \boxed{14}x - \boxed{15}y + \boxed{16} = 0$ である.

II

$f(x) = 2^{2x-1} - 5 \cdot 2^{x-2}$ とする.

(1) $f(\log_4 5) = \frac{\boxed{17} \mid \boxed{18}}{\boxed{21}} - \boxed{19} \sqrt{\boxed{20}}$ である.

(2) x の方程式 $f(x) = k$ が正の解と負の解をもつとき, 定数 k のとり得る値の範囲は $\frac{\boxed{22} \mid \boxed{23}}{\boxed{24}} < k < \boxed{25}$ である.

III

$\triangle ABC$ において, $AB=3$, $AC=2$, $\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AC} = -1$ とする.

(1) A から直線 BC に下ろした垂線を AD とすると, $\overrightarrow{AD} = \frac{\boxed{26}}{\boxed{27}} \overrightarrow{AB} + \frac{\boxed{28}}{\boxed{29}} \overrightarrow{AC}$

である.

(2) $\triangle ABC$ の垂心を H とすると, $\overrightarrow{AH} = \frac{\boxed{30} \mid \boxed{31}}{\boxed{32}} \overrightarrow{AB} + \frac{\boxed{33} \mid \boxed{34}}{\boxed{35}} \overrightarrow{AC}$

である.

IV

数列 $\{a_n\}$ は $a_1=2$, $a_2=6$, $a_3=12$ を満たし, 数列 $\{a_n\}$ の階差数列 $\{b_n\}$ は等差数列であるとする.

(1) 数列 $\{b_n\}$ の一般項は $b_n = \boxed{36}n + \boxed{37}$ である.

(2) $a_{22} = \boxed{38} \boxed{39} \boxed{40}$ である.

(3) 数列 $\{c_n\}$ を

$$c_1 = b, \quad c_{n+1} = c_n + \frac{1}{a_n} \quad (n=1, 2, 3, \dots)$$

で定める. 数列 $\{c_n\}$ の一般項は $c_n = \frac{\boxed{41}n - \boxed{42}}{n}$ である.

V

$x > 0$ で定義された関数 $f(x) = (\log x)^2$ について, 次の問いに答えなさい. ただし, \log は自然対数, e は自然対数の底とする.

(1) $f(x)$ は $x = \boxed{43}$ のとき極小値 $\boxed{44}$ をとる. また, 曲線 $y = f(x)$ の変曲点の y 座標は $\boxed{45}$ である.

(2) 原点 $(0, 0)$ から曲線 $y = f(x)$ に引いた接線のうち傾きが正のものを l とする. l と $y = f(x)$ の接点の座標は $(e^{\boxed{46}}, \boxed{47})$ である.

(3) 直線 $x = e^{\boxed{46}}$ と $y = f(x)$ および x 軸で囲まれた部分の面積は $\boxed{48} e^{\boxed{49}} - \boxed{50}$ である.

VI

中心が O で半径が 1 の円に, $AB = AC$ の二等辺三角形 ABC が内接している. $\angle AOB = \theta$ ($0 < \theta < \pi$) とし, $\triangle ABC$ の面積を $S(\theta)$ とする.

(1) $\angle OAB = \frac{\pi - \theta}{\boxed{51}}$, $AB = AC = \boxed{52} \sin \frac{\theta}{\boxed{53}}$ である.

(2) $S(\theta) = \boxed{54} \sin \theta \sin \frac{\theta}{\boxed{53}}$ であり, $\lim_{\theta \rightarrow +0} \frac{S(\theta)}{\theta^3} = \frac{\boxed{56}}{\boxed{57}}$,

$\lim_{\theta \rightarrow +0} \frac{S(\theta)}{S\left(\frac{\theta}{2}\right)} = \boxed{58}$ である.

【 解 説 】

[I]

$$(1) \quad \sin \theta + \cos \theta = \frac{1}{3} \quad \text{より} \quad \sin^2 \theta + \cos^2 \theta + 2\sin \theta \cos \theta = \frac{1}{9}$$

$$1 + 2\sin \theta \cos \theta = \frac{1}{9} \quad \therefore \quad \sin \theta \cos \theta = -\frac{4}{9}$$

解と係数の関係により, $\sin \theta$, $\cos \theta$ は t の 2 次方程式

$$t^2 - \frac{1}{3}t - \frac{4}{9} = 0 \quad \therefore \quad 9t^2 - 3t - 4 = 0$$

の 2 解である.

$$\text{これを解くと} \quad t = \frac{3 \pm \sqrt{9 + 4 \cdot 9 \cdot 4}}{18} = \frac{1 \pm \sqrt{17}}{6}$$

$$0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ \quad \text{より} \quad \sin \theta \geq 0 \quad \text{であるから} \quad \sin \theta = \frac{1 + \sqrt{17}}{6}$$

別解 $\sin \theta$ の方程式を導いてもよい.

$$\sin \theta + \cos \theta = \frac{1}{3} \quad \text{より} \quad \cos \theta = \frac{1}{3} - \sin \theta$$

$$\text{両辺を 2 乗すると} \quad \cos^2 \theta = \frac{1}{9} - \frac{2}{3}\sin \theta + \sin^2 \theta$$

$$1 - \sin^2 \theta = \frac{1}{9} - \frac{2}{3}\sin \theta + \sin^2 \theta$$

$$9\sin^2 \theta - 3\sin \theta - 4 = 0$$

$$\therefore \quad \sin \theta = \frac{3 \pm \sqrt{9 + 9 \cdot 16}}{18} = \frac{1 \pm \sqrt{17}}{6}$$

$$0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ \quad \text{より} \quad \sin \theta \geq 0 \quad \text{であるから} \quad \sin \theta = \frac{1 + \sqrt{17}}{6}$$

別解 終わり

(2) $m \neq 0$ より, $mx^2 + 4x + m - 3 = 0$ の判別式を D とすると, 不等式の解がすべての実数となるための必要十分条件は

$$m > 0 \quad \text{かつ} \quad D < 0$$

$$\frac{D}{4} = 4 - m(m - 3) = -(m - 4)(m + 1) \quad \text{であるから,} \quad D < 0 \quad \text{のとき}$$

$$(m - 4)(m + 1) > 0 \quad \therefore \quad m < -1, \quad 4 < m$$

$$m > 0 \quad \text{であるから} \quad m > 4$$

$$(3) \quad x + \frac{1}{x} = \frac{1 - 2i}{1 + 2i} + \frac{1 + 2i}{1 - 2i} = \frac{(1 - 2i)^2 + (1 + 2i)^2}{1 + 2^2} = \frac{-3 - 4i - 3 + 4i}{5} = -\frac{6}{5}$$

$$\text{よって} \quad x^2 + \frac{1}{x^2} = \left(x + \frac{1}{x}\right)^2 - 2 = \left(-\frac{6}{5}\right)^2 - 2 = -\frac{14}{25}$$

別解 複素数平面 (数Ⅲ) の知識を用いてもよい.

$$|x| = \left| \frac{1-2i}{1+2i} \right| = \frac{\sqrt{5}}{\sqrt{5}} \text{ であるから } |x|^2 = x\bar{x} = 1 \quad \therefore \frac{1}{x} = \bar{x}$$

$$\text{ここで } x = \frac{1-2i}{1+2i} = \frac{(1-2i)^2}{5} = \frac{-3-4i}{5}$$

$$\text{よって } x + \frac{1}{x} = x + \bar{x} = 2\operatorname{Re}(x) = -\frac{6}{5}$$

$$\text{したがって } x^2 + \frac{1}{x^2} = \left(x + \frac{1}{x}\right)^2 - 2 = \left(-\frac{6}{5}\right)^2 - 2 = -\frac{14}{25}$$

別解 終わり

(4) 3 回の出た目の最大値が 3 である確率は, 3 回とも 3 以下の目が出る確率から, 3 回とも 2 以下の目が出る確率を引いたものであるから

$$\left(\frac{3}{6}\right)^3 - \left(\frac{2}{6}\right)^3 = \frac{27-8}{6^3} = \frac{19}{6^3}$$

また, 3 回の出た目の最大値が 3 で, 3 回の出た目がすべて異なるのは, 1, 2, 3 の目が 1 回ずつ出るときであるから, その確率は

$$\left(\frac{1}{6}\right)^3 \times 3! = \frac{6}{6^3}$$

$$\text{よって, 求める確率は } \frac{\frac{6}{6^3}}{\frac{19}{6^3}} = \frac{6}{19}$$

(5) x 軸と y 軸の両方に接する円の中心は, x 軸と y 軸のなす角の二等分線 $y = \pm x$ 上に存在する. 中心が $y = x$ 上にあるとき, $y = 2x - 3$ と連立させて

$$x = 2x - 3 \quad \therefore x = 3$$

よって, 円の中心は (3, 3) であり, x 軸と y 軸に接することから半径は 3 である.

中心が $y = -x$ 上にあるとき, $y = 2x - 3$ と連立させて

$$-x = 2x - 3 \quad \therefore x = 1$$

よって, 円の中心は (1, -1) であり, x 軸と y 軸に接することから半径は 1 である.

したがって, 半径が最大の円の方程式は

$$(x-3)^2 + (y-3)^2 = 9$$

$$\therefore x^2 + y^2 - 6x - 6y + 9 = 0$$

お問い合わせは ☎ 0120-302-872

<https://keishu-kai.jp/>

[II]

$$(1) \log_4 5 = \frac{\log_2 5}{\log_2 4} = \frac{1}{2} \log_2 5$$

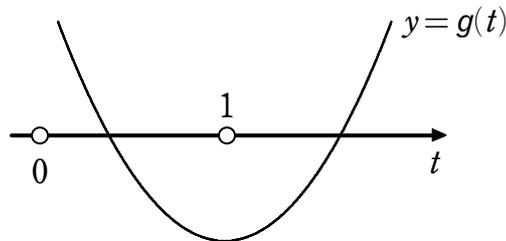
$$\begin{aligned} \text{よって } f(\log_4 5) &= 2^{\log_2 5 - 1} - 5 \cdot 2^{\frac{1}{2} \log_2 5 - 2} \\ &= 2^{\log_2 \frac{5}{2}} - 5 \cdot 2^{\log_2 \frac{\sqrt{5}}{4}} \\ &= \frac{5}{2} - 5 \cdot \frac{\sqrt{5}}{4} = \frac{10 - 5\sqrt{5}}{4} \end{aligned}$$

$$(2) 2^x = t \text{ とおくと } f(x) = \frac{1}{2}(2^x)^2 - \frac{5}{4} \cdot 2^x = \frac{1}{2}t^2 - \frac{5}{4}t$$

$$f(x) = k \text{ より } \frac{1}{2}t^2 - \frac{5}{4}t = k \quad \therefore 2t^2 - 5t - 4k = 0 \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

また、 $x > 0$ のとき $t > 1$ 、 $x < 0$ のとき $0 < t < 1$ であるから、方程式 $f(x) = k$ が正の解と負の解をもつのは、 t の方程式 $\textcircled{1}$ が、 $t > 1$ と $0 < t < 1$ の範囲に、1 つずつ解を持つときであるから、

$$\begin{cases} f(0) = -4k > 0 \\ f(1) = -3 - 4k < 0 \end{cases} \Leftrightarrow \begin{cases} k < 0 \\ k > -\frac{3}{4} \end{cases}$$



$$\text{よって } -\frac{3}{4} < k < 0$$

別解 k の範囲は、定数分離によって求めてもよい。

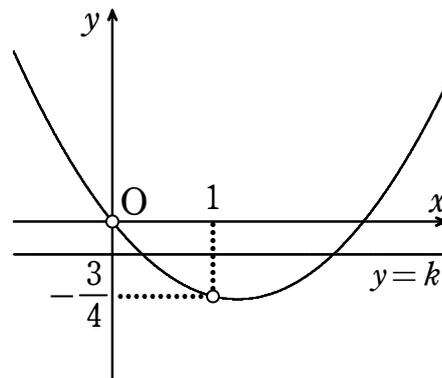
$$2^x = t \text{ とおくと } f(x) = \frac{1}{2}(2^x)^2 - \frac{5}{4} \cdot 2^x = \frac{1}{2}t^2 - \frac{5}{4}t$$

$$f(x) = k \text{ より } \frac{1}{2}t^2 - \frac{5}{4}t = k \quad \dots\dots \textcircled{2}$$

また、 $x > 0$ のとき $t > 1$ 、 $x < 0$ のとき $0 < t < 1$ であるから、方程式 $f(x) = k$ が正の解と負の解をもつのは、 t の方程式 $\textcircled{2}$ が、 $t > 1$ と $0 < t < 1$ の範囲に、1 つずつ解を持つときである。

$$\begin{aligned} k &= \frac{1}{2}t^2 - \frac{5}{4}t \\ &= \frac{1}{2}\left(t - \frac{5}{4}\right)^2 - \frac{25}{32} \end{aligned}$$

よって、 $\textcircled{2}$ の左辺のグラフは右の図のようになるから、このグラフと直線 $y = k$ が $t > 1$ と $0 < t < 1$ の範囲で共有点を持つときを考えて



$$-\frac{3}{4} < k < 0$$

別解 終わり

[Ⅲ]

(1) D は直線 BC 上にあるから、実数 t を用いて次のように表すことができる。

$$\overrightarrow{AD} = (1-t)\overrightarrow{AB} + t\overrightarrow{AC} \quad \dots\dots①$$

$$\overrightarrow{AD} \perp \overrightarrow{BC} \text{ であるから } \overrightarrow{AD} \cdot \overrightarrow{BC} = 0$$

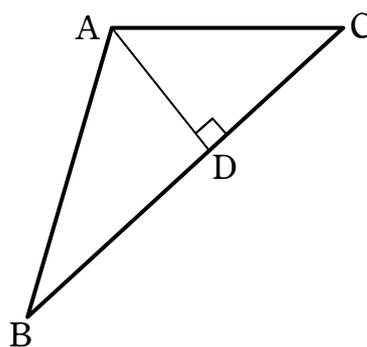
$$\text{よって } \{(1-t)\overrightarrow{AB} + t\overrightarrow{AC}\} \cdot (\overrightarrow{AC} - \overrightarrow{AB}) = 0$$

$$(t-1)|\overrightarrow{AB}|^2 + (1-2t)\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AC} + t|\overrightarrow{AC}|^2 = 0$$

$$(t-1) \cdot 3^2 + (1-2t) \cdot (-1) + t \cdot 4 = 0$$

$$15t - 10 = 0 \quad \therefore t = \frac{2}{3}$$

$$\text{これを ① に代入すると } \overrightarrow{AD} = \frac{1}{3}\overrightarrow{AB} + \frac{2}{3}\overrightarrow{AC}$$



(2) H は直線 AD 上にあるから、実数 k を用いて次のように表すことができる。

$$\overrightarrow{AH} = k\overrightarrow{AD} = \frac{k}{3}\overrightarrow{AB} + \frac{2}{3}k\overrightarrow{AC} \quad \dots\dots②$$

$$\text{よって } \overrightarrow{CH} = \overrightarrow{AH} - \overrightarrow{AC} = \frac{k}{3}\overrightarrow{AB} + \left(\frac{2}{3}k - 1\right)\overrightarrow{AC}$$

$$\overrightarrow{CH} \perp \overrightarrow{AB} \text{ であるから } \overrightarrow{CH} \cdot \overrightarrow{AB} = 0$$

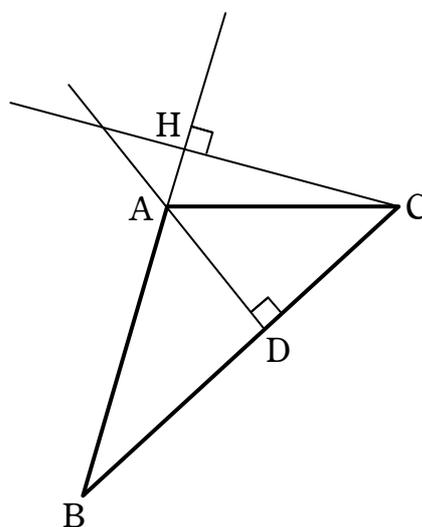
$$\text{よって } \left\{ \frac{k}{3}\overrightarrow{AB} + \left(\frac{2}{3}k - 1\right)\overrightarrow{AC} \right\} \cdot \overrightarrow{AB} = 0$$

$$\frac{k}{3}|\overrightarrow{AB}|^2 + \left(\frac{2}{3}k - 1\right)\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AC} = 0$$

$$\frac{k}{3} \cdot 3^2 + \left(\frac{2}{3}k - 1\right) \cdot (-1) = 0$$

$$\frac{7}{3}k + 1 = 0 \quad \therefore k = -\frac{3}{7}$$

$$\text{これを ② に代入すると } \overrightarrow{AH} = \frac{-1}{7}\overrightarrow{AB} + \frac{-2}{7}\overrightarrow{AC}$$



[IV]

$$(1) \quad b_1 = a_2 - a_1 = 6 - 2 = 4, \quad b_2 = a_3 - a_2 = 12 - 6 = 6$$

階差数列 $\{b_n\}$ は等差数列であり、公差は $b_2 - b_1 = 6 - 4 = 2$ であるから、

$$b_n = 4 + 2(n - 1) = 2n + 2$$

(2) 数列 $\{b_n\}$ は数列 $\{a_n\}$ の階差数列であるから、 $n \geq 2$ のとき

$$a_n = a_1 + \sum_{k=1}^{n-1} b_k = 2 + \sum_{k=1}^{n-1} (2k + 2)$$

$$= 2 + 2 \cdot \frac{1}{2}(n-1)n + 2(n-1)$$

$$= n^2 + n = n(n+1)$$

$a_1 = 2$ であるから、これは $n = 1$ のときも成り立つ。

よって $a_{22} = 22 \cdot 23 = 506$

(2) $c_{n+1} = c_n + \frac{1}{a_n}$ であるから、数列 $\{c_n\}$ の階差数列は、数列 $\left\{\frac{1}{a_n}\right\}$ である。

よって $n \geq 2$ のとき

$$c_n = c_1 + \sum_{k=1}^{n-1} \frac{1}{a_k} = 4 + \sum_{k=1}^{n-1} \frac{1}{k(k+1)}$$

$$= 4 + \sum_{k=1}^{n-1} \left(\frac{1}{k} - \frac{1}{k+1} \right) = 4 + 1 - \frac{1}{n} = \frac{5n-1}{n}$$

$c_1 = 4$ であるから、これは $n = 1$ のときも成り立つ。

よって $c_n = \frac{5n-1}{n}$

[V]

(1) $f(x) = (\log x)^2$ より

$$f'(x) = \frac{1}{x} \cdot 2\log x = \frac{2\log x}{x}$$

$$f''(x) = 2 \cdot \frac{\frac{1}{x} \cdot x - \log x \cdot 1}{x^2} = \frac{2(1 - \log x)}{x^2}$$

よって、 $f(x)$ の増減、凹凸は、次のようになる。

| | | | | |
|----------|---|---|-----|---|
| x | 0 | 1 | e | |
| $f'(x)$ | | - | 0 | + |
| $f''(x)$ | | + | + | 0 |
| $f(x)$ | | ↘ | ↗ | ↗ |

$f(1) = 0$ であるから、 $f(x)$ は $x = 1$ のとき、極小値 0 をとる。

また、 $f(e) = 1$ であるから、変曲点の y 座標は 1 である。

(2) $(t, (\log t)^2)$ における接線の方程式は $y - (\log t)^2 = \frac{2\log t}{t}(x - t)$

$(0, 0)$ を通るとき $-(\log t)^2 = \frac{2\log t}{t} \cdot (-t)$

$$(\log t)^2 - 2\log t = 0$$

$$\log t(\log t - 2) = 0$$

$$\log t = 0, 2 \quad \therefore t = 1, e^2$$

$f(1) = 0$, $f'(e^2) = \frac{4}{e^2} > 0$ であり、

$$f(e^2) = 2^2 = 4$$

であるから、 l と $y = f(x)$ の接点の座標は $(e^2, 4)$

(3) (1) の増減表と、 $\lim_{x \rightarrow \infty} f(x) = \infty$ より、

$y = f(x)$ のグラフは右図のようになる。

求める面積は、図の斜線部分であるから

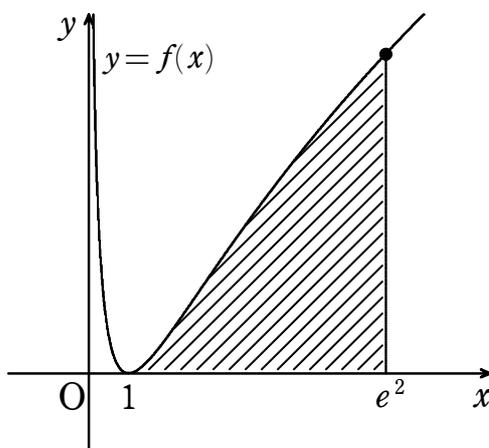
$$\int_1^{e^2} (\log x)^2 dx$$

$$= \left[x(\log x)^2 \right]_1^{e^2} - \int_1^{e^2} x \cdot \frac{2\log x}{x} dx$$

$$= 4e^2 - 2 \int_1^{e^2} \log x dx$$

$$= 4e^2 - 2 \left[x \log x - x \right]_1^{e^2}$$

$$= 4e^2 - 2(e^2 + 1) = 2e^2 - 2$$



[VI]

(1) $OA=OB=1$ より, $\triangle OAB$ は二等辺三角形であるから

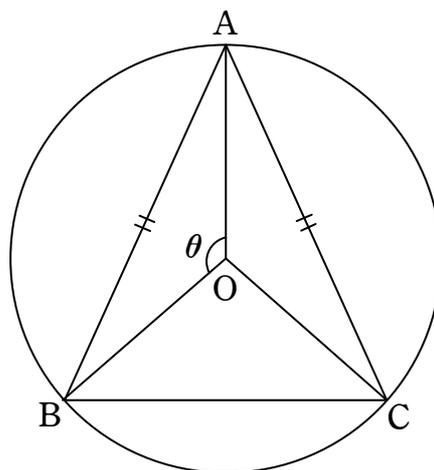
$$\angle OAB = \angle OBA = \frac{\pi - \theta}{2}$$

また, 円周角と中心角の関係により

$$\angle ACB = \frac{1}{2} \angle AOB = \frac{\theta}{2}$$

であるから, 正弦定理により

$$\frac{AB}{\sin \frac{\theta}{2}} = 2 \cdot 1 \quad \therefore AB = 2 \sin \frac{\theta}{2}$$



(2) $\triangle OAB \cong \triangle OAC$ であるから $\angle BAC = 2 \angle OAB = \pi - \theta$

よって $S(\theta) = \frac{1}{2} AB \cdot AC \sin(\pi - \theta)$

$$= \frac{1}{2} \left(2 \sin \frac{\theta}{2} \right)^2 \sin \theta = 2 \sin \theta \sin^2 \frac{\theta}{2}$$

したがって $\lim_{\theta \rightarrow +0} \frac{S(\theta)}{\theta^3} = \lim_{\theta \rightarrow +0} 2 \cdot \frac{\sin \theta}{\theta} \cdot \left(\frac{\sin \frac{\theta}{2}}{\frac{\theta}{2}} \right)^2 \cdot \frac{1}{2^2} = \frac{1}{2}$

また $\lim_{\theta \rightarrow +0} \frac{S(\theta)}{S\left(\frac{\theta}{2}\right)} = \lim_{\theta \rightarrow +0} \left(\frac{\theta}{2} \right)^3 \cdot 2^3 \cdot \frac{S(\theta)}{\theta^3} = \frac{1}{2} \cdot 2^3 \cdot \frac{2}{1} = 8$

別解 最後の極限は, 前の結果を用いずに, 直接計算してもよい.

$S(\theta) = 2 \sin \theta \sin^2 \frac{\theta}{2}$ より

$$\frac{S(\theta)}{S\left(\frac{\theta}{2}\right)} = \frac{2 \sin \theta \sin^2 \frac{\theta}{2}}{2 \sin \frac{\theta}{2} \sin^2 \frac{\theta}{4}} = \frac{\sin \theta \sin \frac{\theta}{2}}{\sin^2 \frac{\theta}{4}}$$

よって $\lim_{\theta \rightarrow +0} \frac{S(\theta)}{S\left(\frac{\theta}{2}\right)} = \lim_{\theta \rightarrow +0} \frac{\sin \theta}{\theta} \cdot \frac{\sin \frac{\theta}{2}}{\frac{\theta}{2}} \cdot \frac{1}{2} \cdot \left(\frac{\frac{\theta}{4}}{\sin \frac{\theta}{4}} \right)^2 \cdot 4^2 = 8$

補足 終わり